

# よしまい

2019年7月28日



## 目次

- ・公園の風景
  - バラバラだぁ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - うれしいハプニング・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 空からの訪問者・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 公園の植物（ヘクソカズラ）・・・・・・・・ 1
- ・公園をみる・観る
  - 実は……・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - Kさんの、あんなとりこんなとり・・・・ 2
- ・活動紹介
  - ズーッと続けよう・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

発行：「葦の会」  
編集：機関紙チーム  
事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53  
山口県立きらら浜自然観察公園内  
電話 0836-66-2030  
FAX 0836-66-2031

～ ご一緒しませんか～  
会員募集中！（高校生以上）

# 公園の風景

## = バラバラだぁ =

7月中旬、蒸し暑い梅雨空の下、駐車場からビジターセンターへの路上にバラバラに解体されたアカテガニの手足が散在していました。大潮の近いこの時期、アカテガニたちは産卵期を迎え盛んに行動しています。産卵場所に向けて移動するアカテガニをカラスが襲い、体の美味しい部分のみを食べた後の残骸とみられます。何気ない日常の公園の風景の中に、弱肉強食の掟に



飲み込まれた生きものたちの命の痕跡を見ることができます。

## = うれしいハプニング =



7月初旬の某日、園内散策中、ヨシ原脇の芝の上に羽化したてのマイコアカネを発見しました（この柔らかく未熟な個体を「テネラル」と称し昆虫一般に用いられます）。思わず拾い上げた瞬間ヨロヨロと舞い上がり、なんと筆者の帽子に止まってくれたのです！ 帽子の縁で羽が乾くのを待っていたのでしょう。30分位して気づくとどこかに飛び去っていました。生きていく自信がついたのでしょうね。生まれたてのマイ

コアカネのためにゆっくりと散策しながら気分はルンルンな私のうれしい時間でした。

## = 空からの訪問者 =

2羽のクロツラヘラサギが暮らす「日本クロツラヘラサギ保護・リハビリセンター（以下、保護ケージと言う）に、このところ空からの訪問者がある。7月はじめ、1羽のクロツラヘラサギが保護ケージの近くの杭に止まってケージの中をじっと観ていた。昨年生まれて日本で越冬していたが、春が来ても帰国の必要を感じない亜成鳥と思われる。訪問者は年末年始にもあったというが同一のものかは不明だ。保護ケージの中と外、お互いに仲間と認識できただろうか。今夏、繁殖地に戻らず山口湾にとどまっているクロツラヘラサギは4羽が確認されている。訪問者たちが、ケージ内のクロツラヘラサギを仲間と認識し友だちを連れて来てくれるようになればいいな。

## = 公園の植物 =

### ヘクソカズラ（アカネ科ヘクソカズラ属）

何とも気の毒な名前だが、万葉集にも登場しているという。実をつぶしたり、葉や花を揉むと名前通りのよからぬ匂いを放つというのが筆者が手にする限りでは匂いの洗礼は受けていない。それどころか1 cm 程の筒状の花は緻密な作りで、筒の内側は紫褐色を帯び、それを縁取るように平らに開く5枚の白い裂片はレースのようだ。昔の風流人が早乙女花と名付け直したとの話に納得した次第。蔓性の宿根草で、小振りながら眺めるほどに趣のある植物である。



# 公園をみる・観る

= 実は…… =

このたび小紙は100号を迎えました。いつまでも編集のミスや変換ミスなど素人っぽさが目立つ紙面ではありましたが、葦の会結成(2002. 10)直後から概ね19年にわたり、奇数月に発行し続けて100号と言う数字に辿り着けました。情報を提供して下さり、伝え方や編集の仕方を教えて下さり、そして何より読んで下さり、観てくださった皆様に心より感謝いたします。

小紙は当初、きらら浜自然観察公園ボランティア・葦の会の会員向けの情報紙として発行されていたものでネーミングも異なるものでした。2008年、広く皆さんに公園の情報をお届けしたいとの思いから、名前を「よしきり」と改名し新生機関紙が誕生しました。新生機関紙の名前に「鳥」を使おうという案が出たとき、私の頭に最初に浮かんだのは「いそしぎ」でした。あの往年の大スター、エリザバス・テイラーとリチャード・バートンが奏でたアメリカ映画の題名となった鳥です。「イソシギ、いいじゃない!シギって公園のマスコットバードでもあるし(註:公園のマスコットバードはトモエガモとセイタカシギです)、響きがなんだかロマンチックじゃない」と。しかし<sup>とき</sup>は5月、青々と生い茂るアシ原でオオヨシキリたちの命を紡ぐ声が姦しく響き渡っている時期でした。その声はまさに自然のもつ生命力の爆発のようで、アシ原にオオヨシキリ、これぞ自然観察公園の象徴みたいなものだと言うことで新生機関紙名は「よしきり」と決まったのです。

単に「ヨシキリ」と言うトリはいません。ヨシキリはスズメ目コヨシキリ科のトリの総称で公園に常駐するのはオオヨシキリです。現在日本にコヨシキリの仲間は約7種いるとされています。

なお、「公園みる・観る」の欄は、公園のその時期に得られた情報を広く皆さんにお伝えしようと2009年7月から連載してまいりました。これも最初は「公園を歩く」と題して「ピオトープに咲いた黄色い花」をはじめ、アシ焼きの煙にたまらず飛び出したタヌキの話や、「生き物公園紀行(NHKの番組、生き物地球紀行のバクリ)」など公園の四季折々の景色を時にはピンポイントで、時には俯瞰的に見つめて拙文を編み続けておりました。

このたび100号の発行を持って私の担当を終わらせていただくことといたします。次回からは新たな筆者による別の観点からの情報発信がなされます。楽しみです。(土×土)

## Kさんの、あんなとりこんなとり

キョッ、キョッ、キョキョキョキョ(特許許可局!)と、初夏に澄んだ声で啼く鳥はホトトギスです。物悲しい声で夜も啼く鳥として昔から愛でられ和歌や古典に登場します。全長約28センチと大きめですが、ウグイスに自分の子を育てさせる托卵鳥としても知られています。ウグイスの巣に自分の卵をひとつ産むと、もともとあったウグイスの卵をひとつ巣から押し出して数合わせをするというホトトギスはかなりの知能犯ですが、別の鳥の卵を大事に温め、明らかに自分の子より大きいヒナにもせっせと餌を運んでやるウグイスもウグイスです。なんか変だな~とは思わないのでしょうか?



uguis

# 活動紹介

## = スーッと続けよう =

6月1日(土) クロツラヘラサギ保全事業の一環としてのイベント「海岸清掃・潮干狩り」が開催されました。自然観察公園を基地とし、山口湾河口を参加者が2班に分かれて清掃作業に当たりました。参加者は企業単位でしたが、個人や家族単位の参加もあり総勢200余名となりました。集めたゴミは可・不燃・PETなどで回収袋は133枚、重量で185kgとなりました。葦の会も海岸清掃と貝汁サービスで参加しました。県漁協が用意した30kgの山口湾産のアサリで作った貝汁は味噌汁仕立てで旨味たっぷり、大人はもとより子供たちもオカワリに並んでくれました。

このようなイベントがこれからもズーッと続けられ、山口湾の浄化に、ひいてはクロツラヘラサギ保全につながればと願っています。

## = 岩国への研修旅行 =

6月2日(日)8時、園長と会員10人が車2台に分乗し出発。10時前に岩国市に入り、サンコウチョウ、キビタキ、シジュウカラ、ヤマガラなどの鳴き声を楽しみながら、木々の緑が美しい城山自然道を進み山頂の岩国城を目指しました。山頂で各自持参のお弁当を食べ、お城をバックに集合写真撮影して下山しました。

五連のアーチが美しい錦帯橋では橋の上からアユ釣りの様子や鵜飼船でのウミウの訓練風景を眺めました。その後、尾津地区に移動し広大な蓮田の連なりの中、オオヨシキリの声を聞いたり、珍しい黒っぽいアオサギの幼鳥やバン、カルガモを観察したりしました。

散策には快適な薄曇りの一日、充実した研修旅行となりました。



## = トンボ捕れたよ!! 夏・子 =



例年になく遅い梅雨明け宣言後間もない7月28日(日)、恒例の夏休み子ども早朝観察会(夏・子)が行われました。園内のトンボロードを進みながら昆虫採取地の園外に出ました、上空を飛ぶチョウドンボを上目使いに見ながらイトトンボやマイコアカネを虫取り網で捕獲したり、地上50cm程の松の枝にホオジロが残した巣を見つけたりしました。冷菓などのおやつタイム、採取した虫の同定後、クロツラヘラサギをケージ越しに見学しました。帰路、5問のクイズを解きながら3時間で行事を終えました。早朝7時の集合に、付添いのパパ・ママも大変だったことでしょう。好天ではありましたが、湿度の高さに一同汗をいっぱいかきました。

～～表紙写真～～ 樹林、静寂の中のマイコアカネ

(編集後記)

2002年12月に「ボランティアズNaW」として創刊した機関紙は現在「よしきり」と改名し、通算第100号の節目を迎えました。公園関係者や各チームのご協力を頂いた成果と思います。これを契機に200号・300号に向けて、さらなる発展に努めたいものです。(M. S.)